専大スポーツ
［専大スポーツ］https://www.senshu-u.ac.jp/sports/
No.478

専大スポーツ編集部
公式WEB
掲載記事を含む全文はコチラ⬆
X
@sensuponow
Instagram
sensuponow

目指すは20年ぶりのシード権

予選突破は通過点

東京箱根間往復大学駅伝競走予選会
＝10月17日、東京都・立川市



初のハーフマラソンで力走したサミュエル　撮影＝君嶋悠樹（経済３）

総合4位で2年ぶり73回目の箱根駅伝本戦への切符をつかんだ陸上競技部。しかし、選手たちの視線はすでに先に向いている。本戦での戦い、そして20年ぶりのシード権獲得を目標に、新たなスタートを切った。

今回の予選会では、個人でタイムを稼ぐ「フリー」と、展開次第で柔軟に動く「準フリー」に役割を分け、攻めの姿勢で挑んだ。

フリー走でチームトップを記録した向田泰誠は「事前のミーティングで、チームの日本人トップを狙うと話していたが、それ以上の結果になった」とハーフマラソン初挑戦でたたき出した最高の結果を振り返った。

準フリーの中心選手は具志堅一斗。「全てを予選会のためにやってきた1年だった」と強い思いをもって臨んだ。3～5人の集団を作りながら準フリーのメンバーを引っ張った。結果もチーム内6番手、個人総合67位と上位に割って入る力走を見せ、「自分の中ではベストの走りができた」と自身3度目の出走となった予選会を総括した。

ただ、選手たちの顔に満足の色はない。目標としていた予選会3位に肉薄していたことについて「詰めの甘さを感じた」（向田）、「手放しでは喜べない結果」（具志堅）など、多くの選手が悔しさを口にした。

本戦で10位以内となりシード権を獲得するという目標に向け、まずはスタートラインに立つ権利を得た。今年のチームスローガン「再建と繋心 Pride of S」の言葉通り、〝S〟の誇りを胸に、深緑とえんじの襷が、新春の箱根路を駆ける。

（宇佐美穣・文3）



チームトップの18位と結果を残した向田
撮影＝木田晨一朗（人間科学３）



声援に応える安斎・田口・具志堅（左から）　撮影＝君嶋



予選会突破を喜ぶ選手たち　撮影＝門前咲良（文4）

■予選会出場選手■

順位	選手名	学部学年	出身校	時間
18	向田　泰誠	経営２	三浦学苑高	1:02:41
31	サミュエル･ガユ	商１	札幌山の手高	1:02:49
40	西岳　政宗	法３	玉名高	1:02:56
53	水津　智哉	経済３	今治北高	1:03:12
66	平松　龍青	経済４	中部大学第一高	1:03:25
67	具志堅一斗	経営４	コザ高	1:03:26
73	丹　柊太郎	人間科学4	松山商業高	1:03:39
75	上山　詩樹	経済４	敦賀気比高	1:03:41
91	安斎　陸久	経営２	いわき秀英高	1:03:50
113	田口　萩太	文３	東京高	1:04:03
172	中西慶士郎	経営３	比叡山高	1:04:44
223	佐藤　陸	文４	東京高	1:05:27

グレコ60kg級 徳原 銅メダル



初出場で銅メダルを獲得した徳原

U23世界レスリング選手権大会＝10月12～18日、米国・ラスベガス

徳原誠馬（文4・高知東高）がグレコローマン60kg級で銅メダルを獲得した。

日本代表として初出場した徳原は、「優勝を目指していたので悔しい気持ちもあるが、国際大会でも自分の得意な展開に持ち込んで勝つことができた。自分のスタイルをさらに磨き、年末の全日本選手権に向けて頑張っていきたい」と決意を新たにした。

（佐藤佑樹・経済３）

徳原 60kg級で学生2冠達成
山本 1年次生が55kg級制す

全日本大学グレコローマンレスリング選手権大会＝10月23～24日、世田谷区・駒沢総合体育館

徳原誠馬が60kg級で優勝。8月の全日本学生選手権に続き、学生タイトル2冠を達成した。

55kg級ではルーキーの山本海星（文1・和歌山北高）が優勝。63kg級で井上隼佑（商4・飛龍高）が3位となるなど各選手が健闘し、団体対抗得点で3位となった。

徳原は、U23世界選手権から帰国後、1週間もないなか大会に挑んだ。「初めての国際大会出場や減量などで疲れがあったが、高いレベルの選手と戦ったことで自信をつけることができた。そのおかげで今大会でも接戦をものにできた」と連戦続きのなかでの手応えを語った。

山本は、「入学してからあまり勝てていなかったので、優勝できて安心している。団体3位に貢献できたこともうれしい」と喜んだ。

今大会の3位以上の選手が12月の全日本選手権大会の出場権を獲得した。1年次生ながら出場を決めた山本は「次の目標は、全日本選手権でメダルを取ること。日々の練習から自分の課題と向き合って一つずつ克服し、技術や体力をさらに高めていきたい」と意気込んだ。

（佐藤）

息の合ったコンビネーションを見せた首藤（右）と遊佐



写真提供＝卓球王国

女子ダブルス 首藤・遊佐ペア

悲願の学生日本一

全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）＝10月29日～11月1日、鹿児島県・あいハウジングアリーナ松元

女子ダブルスに出場した首藤成美（文3・希望が丘高）・遊佐美月（経営2・愛知みずほ大学瑞穂高）ペアが悲願の学生日本一に輝いた。

ともに左利きで、息の合ったプレーを見せる首藤・遊佐ペア。準決勝では前回王者である藤田知子・伊藤詩菜ペア（愛工大）に3―1で勝利。迎えた決勝も青井さくら・牧野里菜ペア（筑大）にストレート勝ちで頂点に立った。

遊佐は「自分たちを信じ、最後まで得意なプレーを貫けた。プレーでもメンタル面でも引っ張ってくれた首藤さんには感謝しかない。関東学生優勝、リーグ戦全勝、学生日本一と最高の結果で今年を終えることができた」と感謝を口にした。

首藤は「今年は優勝を狙えると思っていたので、達成できてうれしい。来年は大学最後の年。この結果を維持するとともに、シングルスのタイトルを絶対に取りたい」と次を見据えた。

女子ダブルスでは、村松愛菜（文3・富田高）・島村果怜（文1・横浜隼人高）ペアが4位に入賞。男子ダブルスでも山下慧（文4・育英高）・田中京太郎（文4・静岡学園高）ペアが3位と健闘した。

（大石真碧・文3）

専Sation34号

専Sation
学内配布中